

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2012.6.15 No.138 連絡先 FAX 042-555-1911



横田基地 また サムライサージとパラシュート降下訓練 6月5日～7日

《横田基地における「サムライサージ」及び投下等訓練の実施に関する情報提供について》が、基地周辺自治体のホームページに載っています。概要：横田基地所属 C-130 輸送機による編隊飛行と砂袋等の投下及び人員の降下訓練、実施日：5日、6日で、7日は予備日、目的：日本を含む太平洋地域の安全を守り、緊急事態に対応するため、です。(写真：パラシュート降下訓練 武蔵村山市在住者提供)



アラスカとテネシーの空軍州兵のC-130が参加 横田基地所属は4機だけ

1月10日のサムライサージ訓練は、横田基地所属のC-130が6機編隊で飛行しましたが、今回は、8機編隊、9機編隊の飛行です。

そして、横田基地所属のC-130は4機だけです。米空軍のホームページに、「今週の写真」として右の写真が掲載されていました。写真説明には、「《(横田基地の)第36空輸隊とアラスカ州の空軍州兵とテネシー州の空軍州兵のC-130ヘラクレスが8隻(機)出撃。出撃はサムライ・サージの一部であった。》と書いてあります。



横田基地所属機は尾翼に「YJ」のテイルコード

右の写真はサムライサージ訓練に参加していたC-130です。

写真上：尾翼に「YJ」の横田基地所属機。写真中：テネシー州の空軍州兵のC-130、写真下：アラスカ州の空軍州兵のC-130です。この他、テキサスの2機等を含め横田所属機以外が5機参加です。



今回のパラシュート降下訓練は、何回かに分けてやっています。実際に何人が降下訓練に参加したのでしょうか。米軍横田基地のホームページには陸軍が訓練とありますが、パラグライダーの降下訓練もやっており、他の部隊も来ているのではないかと、言っている人もいます。実態は分かりません。(写真下2枚は横田撤去ブログより)

陸上自衛隊レンジャー 行進を強行！ (3枚の写真6/12は東京平和委員会の提供)

住民の声に、住民説明会開催、行進路変更、ヘリ使用断念でトラックに、銃は背中になどの変更がありました。



米軍のパラシュート降下訓練場は 伊江島補助飛行場だけ (No. 138 の裏面)

かつてパラシュート降下訓練は、沖縄の読谷補助飛行場で行われていました。同飛行場は海兵隊管理の下に陸軍特殊部隊「グリーンベレー」や海兵隊のパラシュート降下訓練場となっていました。パラシュートでは装甲車や物資も投下するので、落下事故はひんぱんに起こり、1965年、トレーラーで小学生が圧死するという事件が発生しました。住民の長いたたかいで、パラシュート降下訓練は、沖縄の伊江島補助飛行場に移転、実施されることとなりました。読谷補助飛行場は、1995年のSACA合意により返還が決定し、2006年12月に全面返還されました。

日米地位協定に関連する日米合同委員会合意の中に「読谷飛行場から伊江島飛行場へのパラシュート降下訓練の移転」(1999年10月21日)があります。そこには、次のことが記されています。

1. **訓練の移転** 読谷補助飛行場におけるパラシュート降下訓練は、日本政府の要請に基づき、伊江島補助飛行場に移転され、同飛行場において実施される。

2. **訓練移転経費の負担** (1) 日本政府は、パラシュート降下訓練の伊江島補助飛行場への移転に伴い追加的に必要となる経費の全部又は一部を、日米地位協定第24条についての新たな特別の措置に関する協定第3条に基づき負担する。(2) 経費負担項目 (イ) 人員・物資の輸送費 (ロ) 救助艇の運用経費

3. **使用条件の変更** (訓練の最大時間枠 月曜日から土曜日まで6時から21時30分)

以上のように、米軍がパラシュート降下訓練を行えるのは伊江島補助飛行場だけですから、嘉手納飛行場で同訓練を行うと周辺自治体の首長や議会が強く抗議をするのです。

なぜ沖縄にパラシュート降下訓練場があるかと言えば、陸軍特殊部隊や海兵隊がいるからです。横田基地へのパラシュート降下訓練の拡大、しかも、米本国の部隊の参加など世界規模での拡大は断じて容認できません。米軍基地は、沖縄からも日本からも出ていってほしいです。

世界一危険なオスプレイを普天間基地に配備し 岩国・富士も拠点に

沖縄から東北まで「パープル」などと名付けられた6ルートで低空飛行

日米政府は、米海兵隊普天間基地(沖縄県宜野湾市)に配備をねらう新型輸送機MVオスプレイについて、普天間配備前に米海兵隊岩国基地(山口県岩国市)に7月中にも搬入し、試験飛行を行う方向で調整している、という報道がありました。が、さらに、防衛省は13日、オスプレイの普天間基地配備と日本での運用に関する環境審査の米軍報告書を、沖縄県など関係自治体に提出しました。オスプレイが普天間基地に24機配備されれば、岩国基地、キャンプ富士に分遣隊(2~6機)を派遣、その際、既存の6つの低空飛行ルートで訓練を行うことになるとしています。

横田基地をなくしたら どんな展望がひらけるか 考え 語り合おう

基地が返還された跡地、例えば羽村市のアメリカンスクール跡地は、動物公園、小学校、温水プール、都立養護学校などになっています。砂川闘争で返還させた米軍立川基地の跡地は、昭和記念公園、国立立川病院、官庁などが建ちならんでいます。

米軍基地跡地の那覇・新都心の雇用効果は、返還前の128倍であると那覇市議会が答弁しています。いま普天間基地は従業員数207人、軍用地料65億8100万円ですが、普天間基地返還で雇用は3万人、税収520億円、直接経済効果は4500億円とも言われています。

横田基地を返還したら、自治体を中心になって街づくりです。住宅は公営住宅にし、諸施設も活用し雇用を増やします。それだけでも固定資産税、所得税が増えるでしょう。太陽光・風力発電もいいですね。



(那覇・新都心おもろまち風景)